

アフリカ学会 報

昭和39年5月1日 第1号
編集者 日本アフリカ学会
東京都文京区本富士町
東京大学理学部地理学教室内
振替口座・東京 57828

国立民族学博物館

15. 8. 12

日本アフリカ学会の発足にあたって

長谷川 秀 治

Nat. Mus. of Ethn

4月12日、東京大学に於て第1回大会を催し、無事発会をみた“日本アフリカ学会”の誕生にあたり、これまでの経緯について簡単に報告いたします。

第2次大戦後、アフリカは多くの独立国を生み、国際政治の上においても、もはや無視し得ない存在となり、わが国においてもアフリカの政治、経済、文化、その他各分野に関心を持つ研究者の数が次第にふえて参りました。それらの研究者は、それぞれの所属する大学研究機関を中心とした研究会、或いは個人のグループなど、そのおかれた環境に応じて努力を重ねてきましたが、残念乍ら横の研究連絡をはかる全国的な単一学会はなく、相互に連絡の乏しいままに今日迄参つた次第であります。

去る3月、皆様にお配りした発会の趣意書に名をつらねた8人の発起人代表は、このような現状についてかねがねその打解策を考えて居つた者達であり、何とかしてこの現状を改善し、内に国内の研究者の横の連絡、外に国際学会との連絡をはかる全国的単一学会の設立を考え、全国の志ある研究者に檄を飛ばした次第であります。幸にして多くの方々から激励や賛同を頂き、今日現在登録済み約160名、未登録を含めると約200名の方々が入会され、その地理的分布は北海道から九州におよび、又アフリカを研究する場合の専門分野は、自然科学から人文科学への各分野にまたがっております。

4月11日の記念講演会、4月12日の“アフリカとは何か”と題する研究発表及びシンポジウムは、熱心な参加者に支えられ、特にシンポジウムは、持時間を超過してまで有意義な議論が行われました。又同日夜行われました会員懇親会には、約50数名の参会を見、国内各大学アフリカ研究会の学生諸君も交え、将来に希望をもたせる会合でありました。

本会発足については、当然 会則の整備、人事の決定など、会を運営するための事務が残されておつたわけではありますが、これについては次のような手順をふんで参りました。

1. 大会前に発起人代表で協議の上、43名の方々に発起人をお願いしました。
2. 4月8日、国際文化会館に於て、日本学術会議及び関係隣接学会の幹部の方々の御参集を願い、今後のアフリカ研究のあり方について、種々懇談いたしました。
3. 4月11日、記念講演会終了後、発起人の中から16名の在京世話人が集り、その席上長谷川秀治より、今後の具体的な運営については、発足勿々の学会のこともあり執行部におまかせしたらどうかの発言あり、参会者の賛同を得ました。
4. 3.の承認に基き、在京世話人は、今西、中山、松沢3発起人とも密接な連絡をとりつゝ慎重協議の結果、次の結論を得ました。
5. A. 新設の学会であり、会員相互の面識も乏しく、又会員数も毎日漸増しつつあるような状態では、会員→評議員→理事→会長というような公式な役員人事のルートをとることは、現状では(少くとも今年度は)きわめて難しいが、対外的な折衝もあり、学会としての体裁を整えるために暫定的な役員をおく必要があること。

B. Aのような事情と、事柄の緊急性をかんがみ、明春の第2回大会迄の1年間は、8名の発起人代表がその責任をとり若干の方に応援を願つて暫定的な役員を構成し、出来得れば今年末位、会員遂の安定したところで評議員の数を決め、会員の直接選挙により評議員を選出し、正規の手続きを経て次期役員を選出したいこと、

以上のような手順をふみ、世話人協議の結果次のような理事、及び監事の人事を決めました。

本年度の理事の陣容は、今西錦司(京大)、岡正雄(明大)、小堀巖(東大)、中山正善(天理大)西野照太郎(国会図書館)長谷川秀治(群馬大)、松沢勲(名大)、山田秀雄(一橋大)の8名であり、互選により会長に長谷川が選ばれました。又学会監事は福永英二(アフリカ協会)氏をお願いし、幹事として浦野起央(日大)、鈴木秀夫(東大)両君を委嘱しました。

役員人事については、右のような事情を会員各位において御了承の上、御承認頂きたく存じます。

新学会の会則については、暫定的に次のように定め、これも次期総会において改善してゆきたいと思ひます。

日本アフリカ学会会則

第1章 総則

第1条 この会は日本アフリカ学会と称する

第2条 この会はアフリカ大陸及びその周辺島嶼の自然と人文・社会についての基礎的な研究及び調査を行い、日本に於るアフリカ研究の発展をはかることを目的とする。

第3条 この会は前記の目的を達成するために、次の事業を行う。

1. 機関誌及び図書等の刊行
2. 研究発表の為の会合の開催
3. 国内及び国外の学術研究団体、学会との連絡、交流
4. 現地研究調査
5. 研究者の育成
6. その他目的を達成するために必要な事業

第2章 会員

第4条 この会の会員を次の三種類とする。

1. 正会員 (年会費 1500円)
2. 準会員 (年会費 1000円)
3. 法人会員 (年会費1口に付10000円)

ただし、準会員とは大学院学生以下のものとする。

第3章 役員

第5条 この会は次の役員を置く。

1. 会長 1名
2. 理事 10名以内
3. 評議員 若干名
4. 監事 2名以内

以上4月末までにおける新学会の現状について申し上げます。新学会の現状におけるアフリカ研究の発展のために、それぞれの専門分野において日夜研鑽される会員諸氏の総有機関であり、その将来の発展は一に会員諸氏1人1人にかかっています。本学会の活動をますます有意義ならしめるための具体的な方途について、会員諸氏の忌憚ない御意見の開陳を願うと共に、これを支えてゆく経済的基盤の強化についても、つねに深い御関心と御協力を仰ぐ次第であります。

§ 「アフリカ研究」の刊行予定について

日本アフリカ学会の機関誌は、「アフリカ研究」と題し、第1号は、第1回大会の折の「アフリカとは何か」と題する5人の報告内容を中心に結集をすすめております。編集部は、当分の間、常任理事長及び幹事で代行いたしますが、事務上の連絡は、当会事務局で結構です。

第2号以降の編集については、本会会員の広汎な層にかんがみ慎重検討中であり、アフリカに関する問題別、又は地域別の特集号形式をとりながら、一般論文も掲載してゆく所存です。

学会活動の記録は、い報欄を設けて、会員諸兄姉の研究動向、その他重要なニュースをのせてゆくことにいたします。ついては、それぞれの専門誌に論文を掲載された場合とか、著書が出版された場合には、その抜刷りを学会まで、御寄贈頂けば、「アフリカ研究」誌上において、紹介批評をしてゆきたく思います。「アフリカ研究」のい報欄を見ていけば、日本のアフリカ研究機関及び研究者の犬勢が確実につかめるといふ名実共に全国機関誌となるよう、御協力頂きたく存じます。

§ 会員募集について

4月末現在の会員数は153名で、なお少しづつ増加していることは大変心強い次第であります。入会申込書を見ながら考えることは、アフリカに対する関心を持つ研究者が、以外な分野に居られることであります。3月の趣意書の発送は、極力もれなきを期した筈であります。それでも世話人の専門分野外の学会員に対する案内など十分でなかつたうらみがあります。

会員の方々から、以上のような点を勘案の上積極的な新会員御紹介を期待しております。会則および申込用紙は、必要部数記入の上、御一報次第お送りします。なお、学会例会の当日は、会場でも受付いたします。

§ 第1回例会のお知らせ

学会活動の中心となる研究会は、当分の間月1回、開催してゆきたく思います。第1回は、「熱帯医学上より見たアフリカ」と題し長谷川秀治氏にお願いします。同氏は、外務省の文化使節として、先年アフリカ各地をまわられ、つぶさに現地の諸問題を観察して米られました。スライドをまじえて興味あるお話を伺えると思います。日時は、5月23日(土)午後2時より約1時間、場所は、国立国会図書館1階小講堂です。なお研究会において発表を希望される方は、その題目と簡単な要旨(200字位)をそえて事務局迄、お申し込み下さい。又会員諸氏からの研究会のあり方についての御意見を歓迎いたします。海外研究者の来日など、よいニュースのある場合も積極的な連絡をおまちします。

§ 会費納入についてのお願い

学会の会費は、前記のように正式に決まりましたので、未だ御納入されていない会費は、至急お納め願います。送り先は、現金送金ならば東京都文京区本富士町東京大学理学部地理学教室内日本アフリカ学会事務局宛、銀行送金は第一銀行本郷支店、日本アフリカ学会の普通口座宛、郵便振替送金は東京57828日本アフリカ学会宛でお願いします。